

II 工業用水道事業

令和6年度決算 財政補足説明

目次

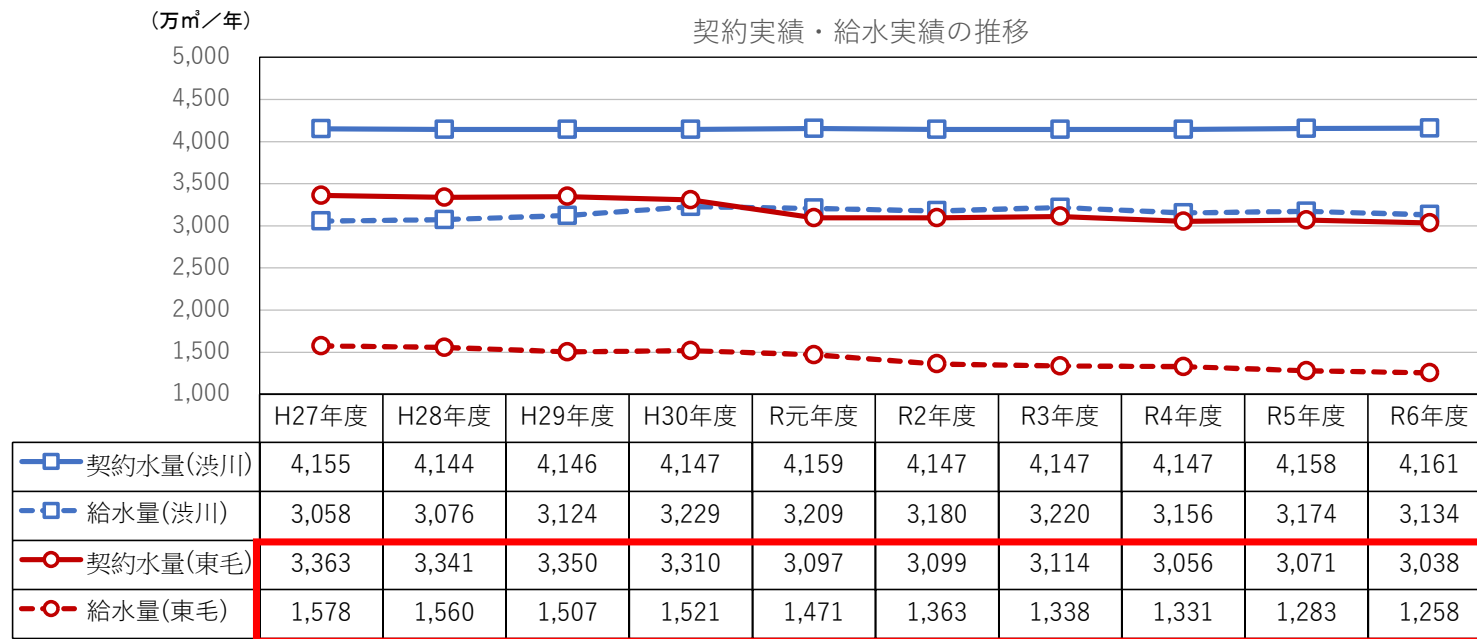
1	事業実績	13
2	収支の状況	14
3	財政の状況 (バランスシートの状況、キャッシュフローの状況)	15
4	供給単価・給水原価 (供給単価・給水原価(渋川)、供給単価・給水原価(東毛))	17
5	経営指標分析 (料金回収率、経常収支比率、企業債等残高対経常収益比率、有形固定資産減価償却率、管路老朽化、施設利用率)	19

工業用水道事業

1 事業実績（契約水量・給水量）

ポイント

- ・ 渋川工水の、契約水量（1時間当たりの最大給水量）と給水量との差は1,000万 m^3 台で概ね横ばいの状態にある。
- ・ 渋川工水の、契約水量は安定して高い基準を保っている。
- ・ 東毛工水の、給水量は減少傾向にある。
契約水量と給水量の差が大きいのは、工水の有効活用等により節水が進んだことや、夜間に使用しない製造業が多いことによるものである。



工業用水道事業

2 収支の状況

ポイント

・ 営業収益が1%減少したことに加えて、維持管理費及び修繕費の増により営業費用が4%増となり、営業損益は△30百万円で前年度に比べ△81百万円となった。

〈損益計算書〉

(単位：百万円)

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	対前年度増減	増減率
営業収益	1,584	1,594	1,610	1,609	1,594	△ 15	△ 0.9 %
給水収益	1,584	1,594	1,610	1,609	1,594	△ 15	△ 0.9 %
営業費用	1,525	1,501	1,614	1,558	1,624	66	4.2 %
維持管理費	649	657	771	724	788	64	8.8 %
修繕費	187	125	143	132	147	14	10.9 %
減価償却費	689	720	700	701	689	△ 12	△ 1.8 %
営業損益	59	93	△ 4	51	△ 30	△ 81	△ 158.7 %
営業外収益	300	294	301	337	287	△ 50	△ 14.8 %
長期前受金戻入	173	168	169	165	160	△ 6	△ 3.4 %
雑収益	127	127	132	130	127	△ 3	△ 2.6 %
営業外費用	130	122	127	101	110	9	8.6 %
支払利息	83	82	69	60	51	△ 9	△ 14.3 %
雑支出	47	40	58	42	59	17	41.3 %
経常損益	229	266	170	287	147	△ 140	△ 48.7 %
純損益	235	371	170	342	150	△ 193	△ 56.3 %
総収益	1,890	2,001	1,911	2,001	1,884	△ 118	△ 5.9 %
総費用	1,655	1,631	1,741	1,659	1,734	75	4.5 %

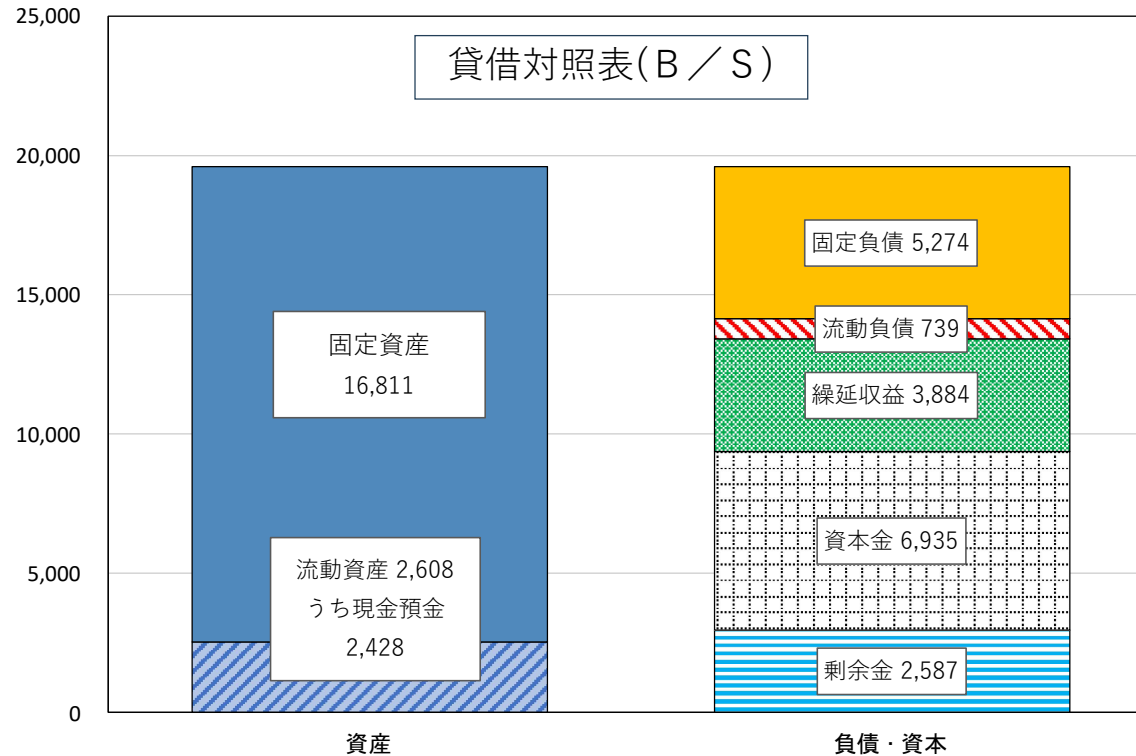
工業用水道事業

3 バランスシート of 状況

ポイント

- ・ 管路などの固定資産と、現金預金などの流動資産を合わせた資産は、19,419百万円。
- ・ 企業債などの負債は6,013百万円だが、自己資本構成比率（総資本(負債資本合計)に占める自己資本の割合）は69.0%であり、経営の安定性は高い。

自己資本構成比率(%) =
(繰延収益 + 資本金 + 剰余金) ÷ 総資本 (百万円)



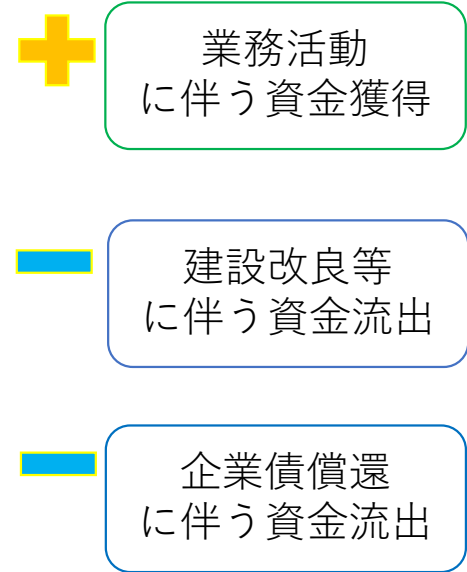
3 キャッシュフローの状況

ポイント

- 現金預金の動きを示すキャッシュフローは、業務活動による資金獲得が建設改良及び企業債償還等に伴う資金流出を上回り、現金預金は59百万円増加した。
- 今後、老朽化管路対策として、建設改良費の増加が見込まれることから、計画的な資金の確保に留意する必要がある。

キャッシュフローの状況 (単位：百万円)

	R5年度	R6年度	前年差
業務CF	818	723	△ 95
うち当年度純利益	342	150	△ 193
うち減価償却費	701	689	△ 12
うち未収金の増減額 (△は増加)	7	△ 22	△ 29
うち未払金の増減額 (△は減少)	△ 63	28	91
投資CF	△ 147	△ 443	△ 296
うち有形固定資産取得	△ 154	△ 344	△ 190
うち投資有価証券の取得		△ 100	△ 100
うち国庫補助金による収入	△ 1		1
うち工事費負担金による収入	3		△ 3
財務CF	△ 514	△ 221	293
うち他会計からの長期借入金収入	159	373	214
うち企業債償還	△ 507	△ 431	76
うち他会計からの長期借入金の償還	△ 167	△ 163	4
資金増減額	157	59	△ 98
資金期首残高	2,212	2,369	157
資金期末残高	2,369	2,428	59



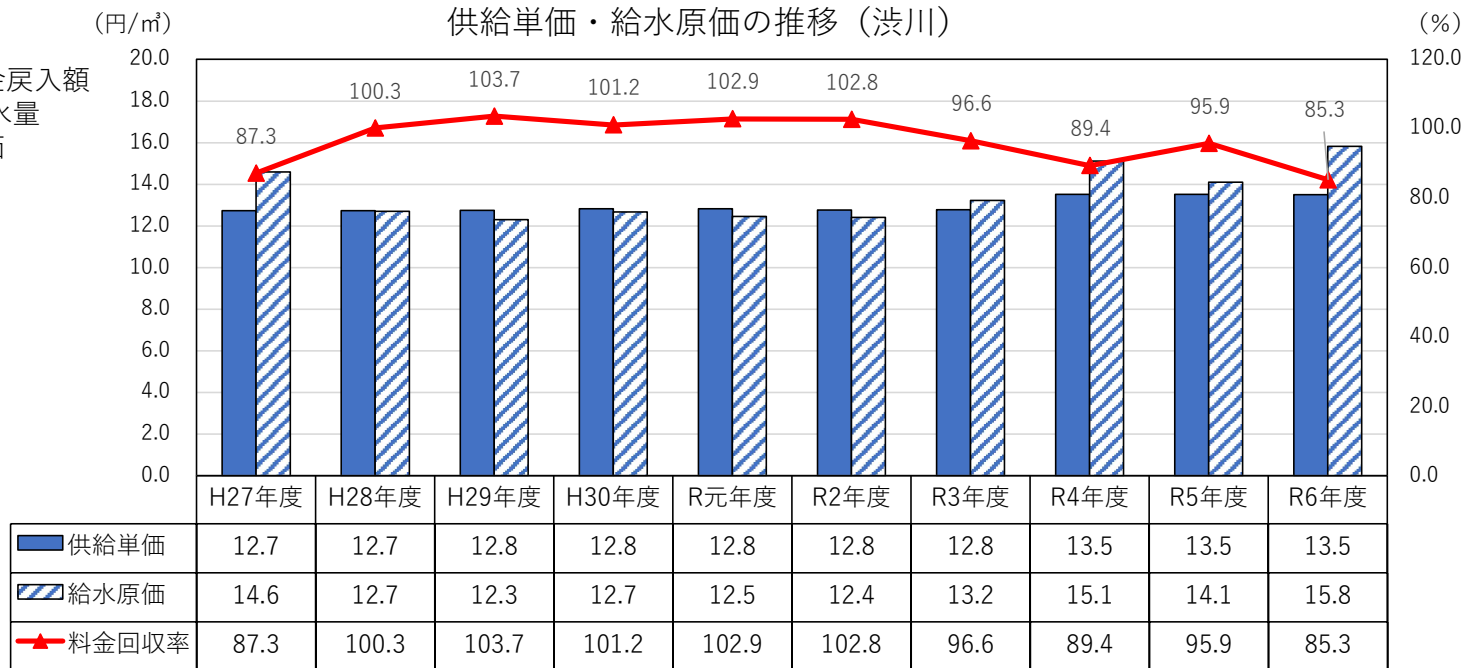
工業用水道事業

4 供給単価・給水原価（渋川）

ポイント

- ・ 供給単価を給水原価が超えており、1 m³あたり2.3円の損失を計上している。
- ・ 給水原価は、委託費・修繕費の増大により営業費用が増加し、前年度から1.7円増加した。

供給単価(円) = 給水収益 ÷ 契約水量
 給水原価(円) = (営業費用 - 長期前受金戻入額 + 営業外費用) ÷ 契約水量
 料金回収率(%) = 供給単価 ÷ 給水原価



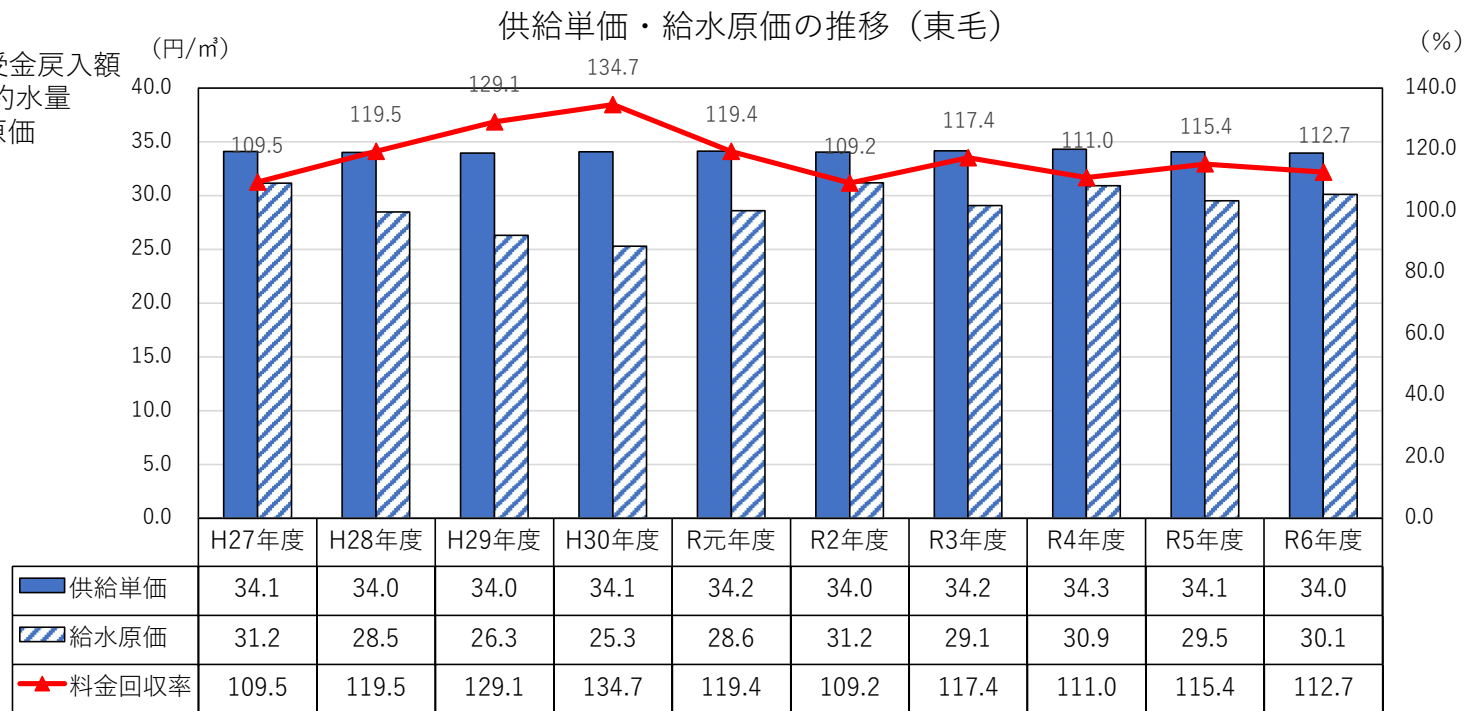
工業用水道事業

4 供給単価・給水原価（東毛）

ポイント

- ・ 供給単価を給水原価が下回っており、1 m³あたり3.9円の利益を生み出している。
- ・ 給水原価は、契約水量の減少と維持管理費の増大とにより、前年度から0.6円増加した。
- ・ 料金回収率は毎年100%を上回っており、順調に推移している。

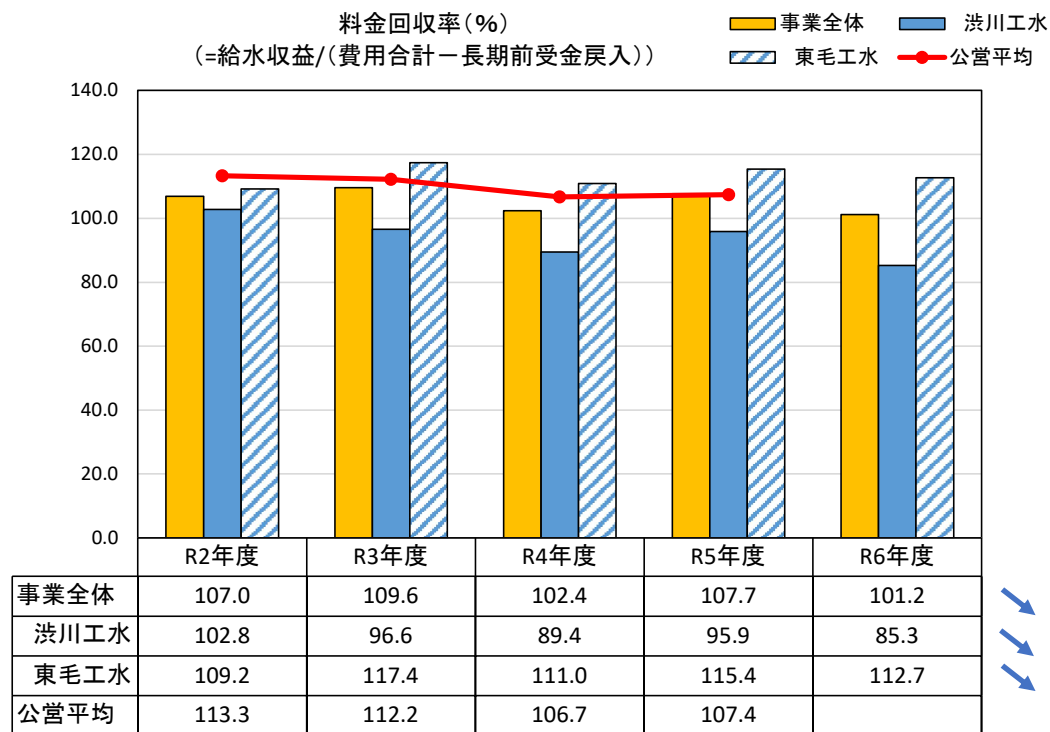
$$\begin{aligned} \text{供給単価(円)} &= \text{給水収益} \div \text{契約水量} \\ \text{給水原価(円)} &= (\text{営業費用} - \text{長期前受金戻入額} \\ &\quad + \text{営業外費用}) \div \text{契約水量} \\ \text{料金回収率(\%)} &= \text{供給単価} \div \text{給水原価} \end{aligned}$$



5 料金回収率

ポイント

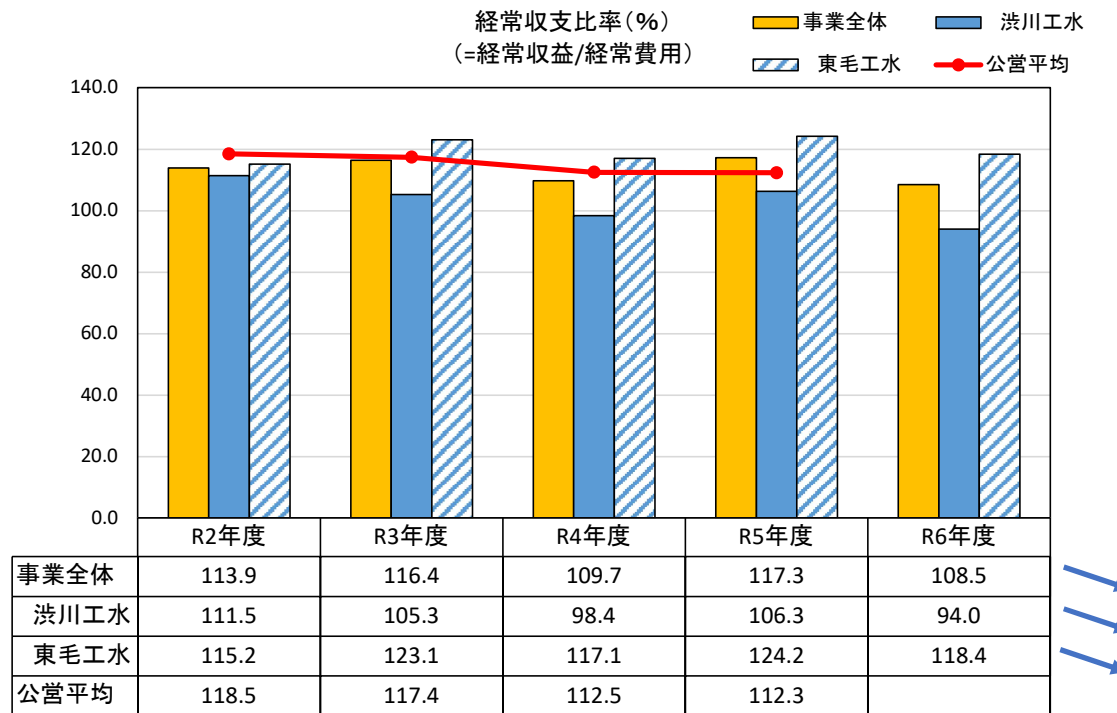
- ・ 渋川工水は、令和3年度から100%を下回っており改善が求められる。
- ・ 東毛工水は、低下傾向にあるものの概ね公営平均と横ばいであり良好である。



5 経常収支比率

ポイント

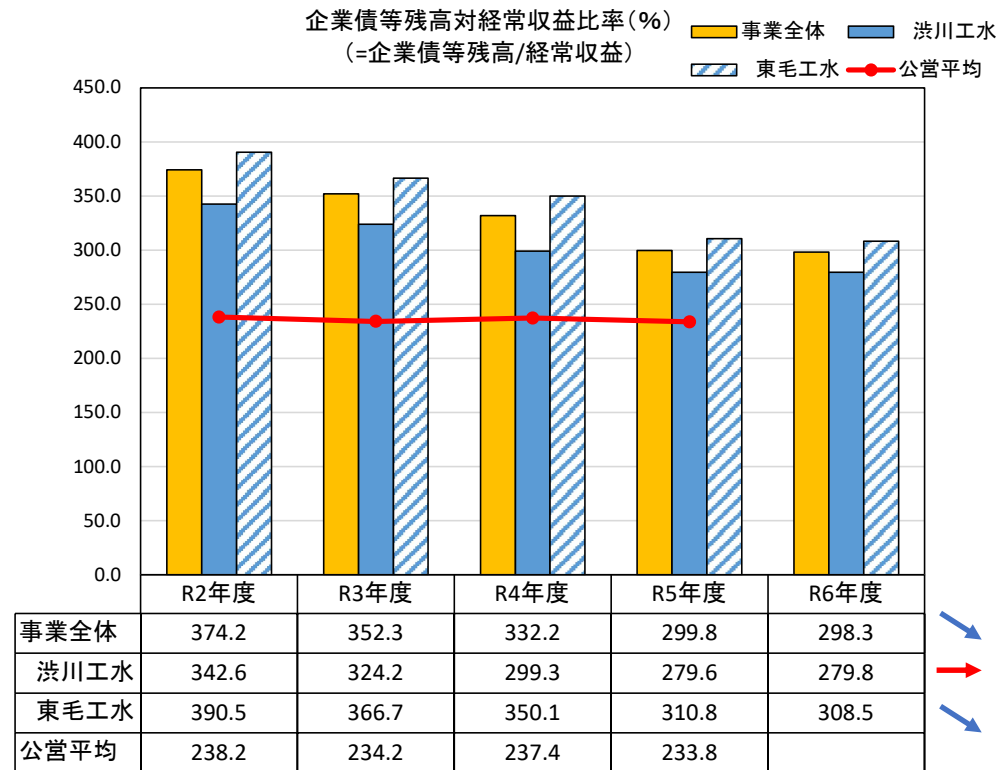
- ・ 経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合）は維持管理費の増大等により前年度から8.8ポイント減少した。
- ・ 渋川工水では、100%未満となっており、経営改善を図る必要がある。
- ・ 東毛工水では、100%以上ではあるが老朽化管路の更新等の財源を確保する必要がある、アセットマネジメントによる長期改修計画が必要である。



5 企業債等残高対経常収益比率

ポイント

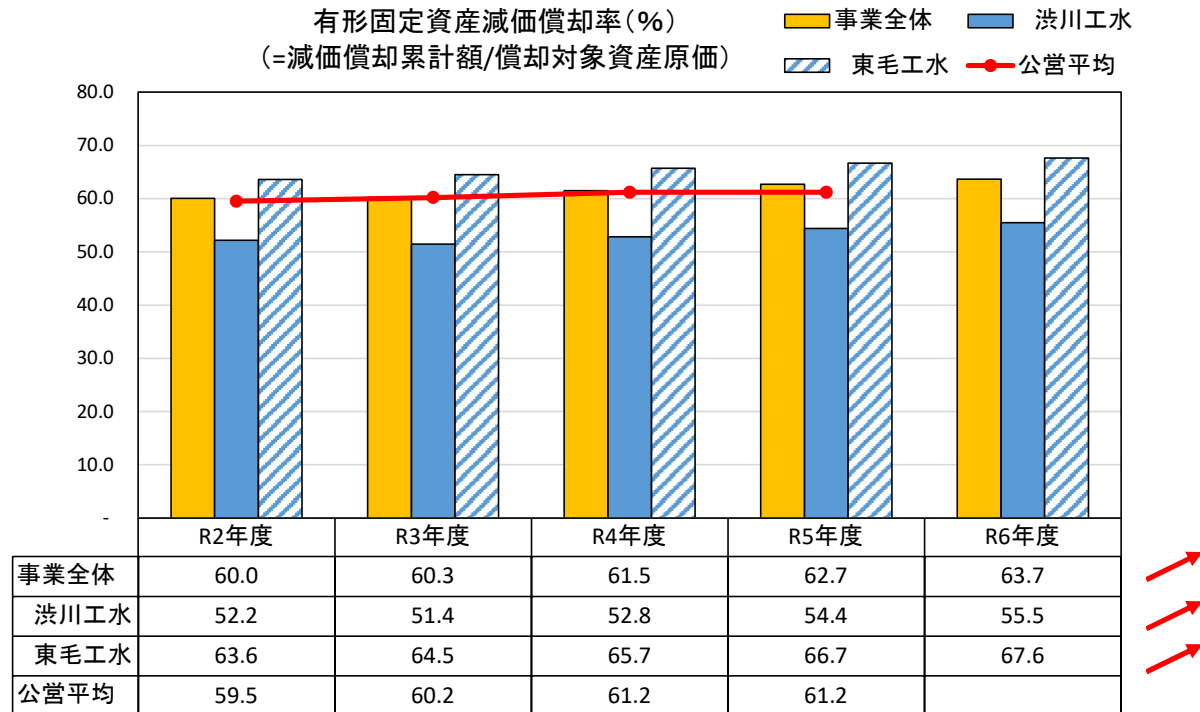
- ・ 企業債等残高対経常収益比率（経常収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す）は、償還が順調に進み、改善傾向にあるものの公営平均と比べ依然として高い水準にある。
- ・ 令和6年度末の企業債等残高は渋川工水で1,863百万円、東毛工水で3,748百万円と多額であり、今後も償還が続くことから、資金の確保に留意する必要がある。



5 有形固定資産減価償却率

ポイント

- 有形固定資産減価償却率（有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す）は、両工水ともに上昇傾向にある。
- 計画的な更新・改修を実施するとともに、施設・設備の長寿命化に取り組んでいく必要がある。



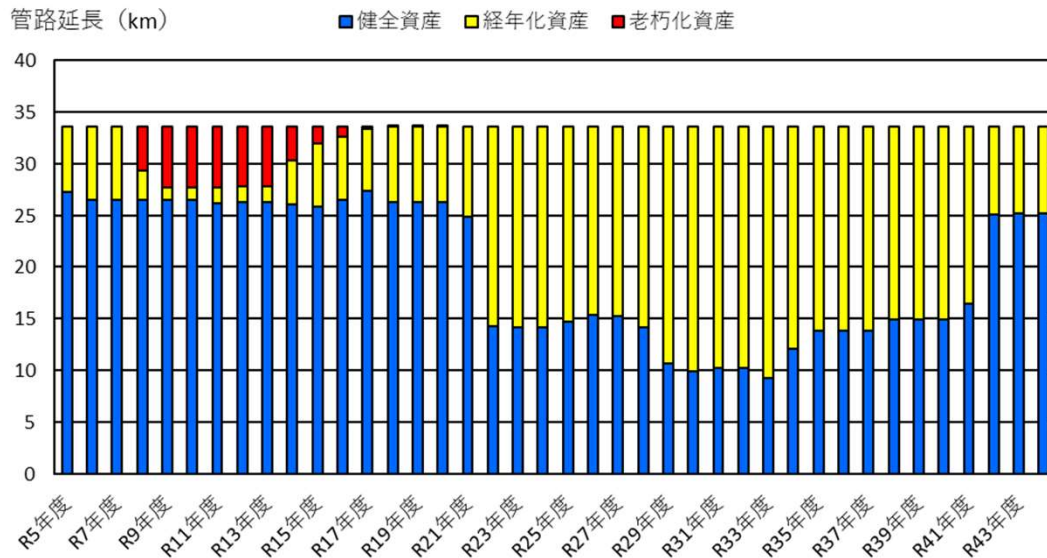
工業用水道事業

5 管路老朽化

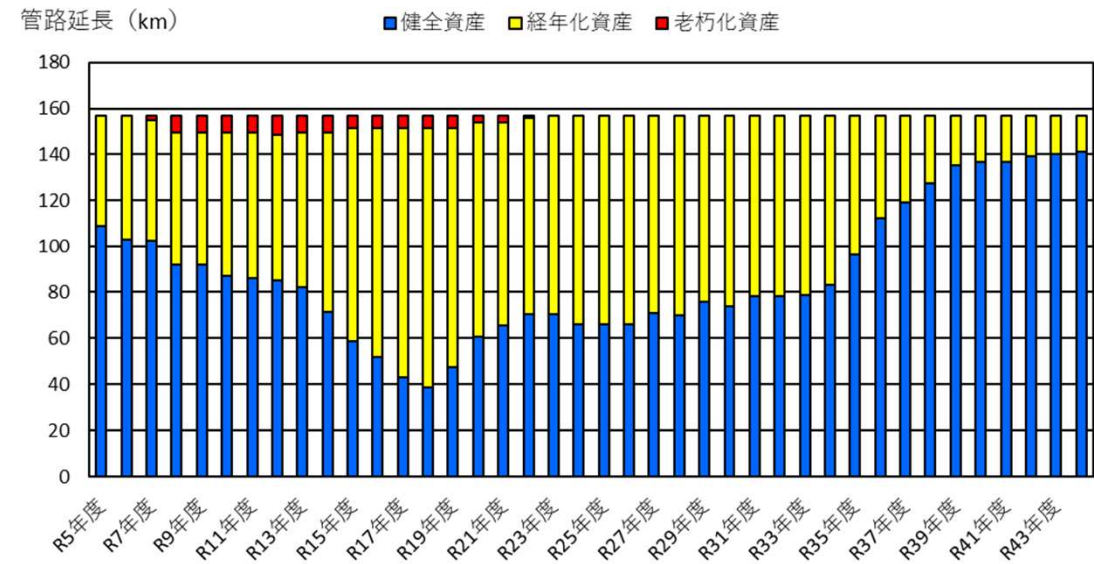
ポイント

- ・ 渋川・東毛両工水において、令和8年度から老朽化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.5倍（60年）を超えた資産額）が増加する。
- ・ 経年化資産（経過年数が法定耐用年数（40年）の1.0～1.5倍（40～60年）の資産額）は、渋川工水では令和33年度まで、東毛工水では令和19年度まで増加する。
- ・ アセットマネジメントにより老朽化資産の更新を行う予定である。

管路健全度（渋川工水）



管路健全度（東毛工水）



5 施設利用率

ポイント

- ・ 渋川工水は、給水能力に対する給水実績の割合が70%台を維持している。
- ・ 東毛工水は、給水能力に対する給水実績の割合が30%を下回る状況であり、施設能力の半分以上を活用できていない状態にある。

